

## 軽井沢の特定外来植物 駆除

「外来生物法」に指定されている特定外来植物を見つけて、駆除する活動を継続しています。現時点で、町内で生育が確認されている特定外来植物は、アレチウリ・オオキンケイギク・オオハンゴンソウの3種類です。アレチウリは、サ会議が、町内で最初に発見しました。

明治以降、人間活動によって、繁殖力旺盛で、国内に天敵のいない外来植物が増えています。種子をつける前までに抜き取り、根こそぎにしないと、再生してしまいます。根競べの作業です。

【侵入経路・影響を受ける在来植物】（説明文は、国立環境研究所「侵入生物データベース」より）

アレチウリ 米国・カナダ原産

1952年に静岡県清水港で確認 輸入大豆に種子が混入、豆腐屋を中心に拡大したといわれる。

影響を受ける在来生物：河川敷などの在来種、畑作物、イネ、造林木



2013年10月10日 油井地区で繁茂していたアレチウリ。現在は駆除し、激減させたが、なお観察が必要。

オオキンケイギク, ケナシオオキンケイギク, ホソバオオキンケイギク, アラゲオオキンケイギク

北米原産

1880年代に、観賞用、緑化用として導入

影響を受ける在来生物：在来の草本植物

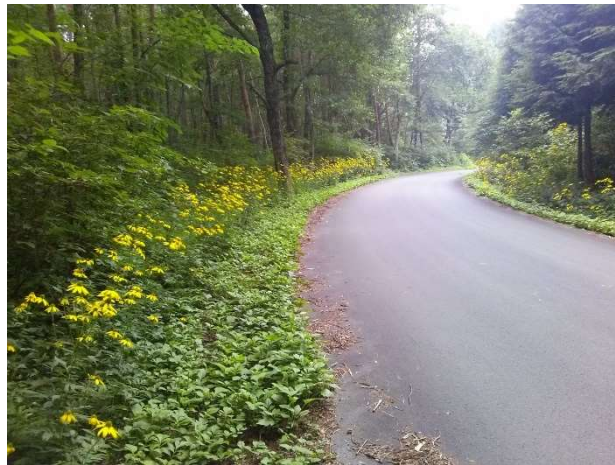


オオキンケイギクの標本（2013年6月29日）太い根があり、再生力旺盛。

### オオハンゴンソウ 北米原産

導入は明治中期。1955年に野外で確認。観賞用として導入

影響を受ける在来生物：在来の草本・低木、ホザキシモツケ、イヌコリヤナギ、オノエヤナギ、ズミなど



2014年8月21日 千ヶ滝遊歩道沿いに繁茂するオオハンゴンソウ。現在も林内に散在している。

特定外来植物を駆除することによって、単に、日本の在来植物を守り、生態系の大切さを知るだけでなく、行政や業者、住民との共同作業で地域の自然環境を守り、相互の信頼関係を築くことができます。